

令和6年度（2024年度） 道徳教育パワーアップ地区別研修会

授業づくりのRPDCA

令和5年3月 熊本県教育委員会



©2010熊本県くまモン

熊本県教育庁市町村教育局義務教育課

目的 授業づくりの手順が分かる

演習の流れ

1 道徳科の授業で悩んでいること（5分）



2 道徳科授業力向上手引書をもとに授業づくりのポイントを説明（15分）

3 教材を使って中心発問づくりまでの演習（40分）

※道徳科授業力向上手引書・学習指導要領解説を使用



演習 1 「道徳科の授業づくり」

目的

授業づくりの手順が分かる

1 道徳科の授業で悩んでいること（5分）



演習 1 「道徳科の授業づくり」

目的 授業づくりの手順が分かる

2 道徳科授業力向上手引書をもとに授業づくりのポイントを説明（15分）



来週の授業は・・・

学年：中学校 1 年生

教材：ネット将棋

内容項目：

自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと。



授業づくりは、何からはじめたらいいのだろう。





授業づくりは、何からはじめたらいいのだろう。

指導の意図が明確になっていく



①内容項目や道徳的価値の確認

②指導の要点等をもとにした児童生徒の実態把握

③教材の活用

上に示した道徳科のお団子は一番上の**内容項目**から食べていきましょう。

内容項目→**児童生徒の実態**→**教材の活用**、この手順を大切にして道徳科の授業づくりを行いましょう。



1

内容項目
(道徳的価値)

2

児童生徒
の実態

3

教材の活用



内容項目をもとに
児童生徒の実態把握を行う

① 道徳的価値を確認する

学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）の内容項目のページで道徳的価値を確認しましょう。



A 主として自分自身に関すること

1 自主、自律、自由と責任

自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

(小学校) 自主、自律、自由と責任
(第1学年及び第2学年) 自ら考え、判断し、実行することを通して、自主的に行動すること。
(第3学年及び第4学年) 自ら考え、判断し、実行することを通して、自主的に行動すること。
(第5学年及び第6学年) 自ら考え、判断し、実行することを通して、自主的に行動すること。
(小学校) [正義、誠実]
(第1学年及び第2学年) うそをついたりごまかしたりしないで、素直に喜び喜びと生活すること。
(第3学年及び第4学年) 通じは素直に改め、正道に明るい心で生活すること。
(第5学年及び第6学年) 誠実に、明るい心で生活すること。

内容項目

(1) 内容項目の概要

「自律の精神を重んじ」とは、他からの強制や命令を持つことなく、自分の内に自ら規律を作り、それに従って行動しようとする気持ちを大切にすることである。「自主的に考え、判断」するとは、他人の保護や干渉にとらわれずに、善悪に関わる物事などについて幾つかの選択肢の中から自分で最終的に決めることである。自律は、自分の内部に自ら規律を作ることに焦点があり、自主は、外部に対し自分の力で決定することに焦点がある。したがって、自主と自律は一体的に考えられることが多いのである。「誠実に実行」するとは、すがすがしい明るい心で、私利私欲を交えずに真心を込めて具体的な行為として行うことである。誠実は、自己を確立するための主徳であると言われ、Aの視点の内容項目だけでなく、他の視点の多くの内容項目にも関わる徳性である。「その結果に責任をもつ」とは、ある行為により生じた自分が負うべき義務を良心的に忠実に果たすことである。責任とは、ある人の行為がある事象に対して原因となっているとされる場合、生じた結果に対して応答し、対処することである。したがって、行為者にその行為をする自由があることを前提としている。自由とは自らに由ることであり、自らの意志や判断で行動することである。自由な意志や判断に基づいた行動には責任が求められる。

自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが真徳の基本である。したがって、深く考えずに多数派に付和雷同したり、責任を他人に転嫁したりするのではなく、自らの規範意識を高め、自らを律することができなければならない。どのような小さな行為でも、自分で考え、自分の意志で決定したものであるとの自覚に至れば、人間はその行為に対して責任をもつようになる。そ

こに、道徳的自覚に支えられた自律的な生き方が生まれ、自らの責任によって生きる自信が育ち、一個人間としての誇りがもてるようになるのである。

(2) 指導の要点

小学校の段階では、特に高学年で自由と自分勝手との違いや、自由な考えや行動のもつ意味及びその大切さを実感できるように指導している。また、誠実については、自分自身に対してだけでなく、外に向けても誠実さを発揮するように指導している。

中学校の段階では、入学して間もない時期には、周囲を気にして他人の言動に左右されてしまうことも少なくない。学年が上がるにつれて、自我が目覚め、自主的に考え、行動することができるようになる。自由を求める傾向が強くなり、社会通念としての規範や今までの自分の価値観を疑い直そうとする時期でもある。しかし、一方では、自由の意味を置き過ぎて、社会の規範を顧みない生活を返ったり、また、自分自身の行為が自分や他者にどのような結果をもたらすかということを深く考えないまま、無責任な言動をとったりすることもある。

指導に当たっては、小学校における指導内容を更に発展させ、より高次の自立心や自律性を高め、規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校ではまず、自己の気高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して整ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し、自分の自由な意志に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通じ、失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。

さらに、善を善としてはっきり捉え、それを毅然として受け止める行おうとする良心の大切さに気付くようにしなければならない。良心に基づくよい行為とは、自分にとっても他者にとってもよい行為である。この意味で、善悪判断の基幹となる多面的なものの見方や考え方を身に付けることの重要性に気付かせ、自分の行為の動機や純粋さにとどまらず、その行為が及ぼす結果についても深く考えられるようにすることが必要である。自由を放縦と誤解してはならず、自らを律し、自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し、人間としての誇りをもった、責任ある行動がとれるように指導することが大切である。

1 自主、自律、自律と責任

中学校の内容項目

内容項目
(道徳的価値)

自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、
誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

道徳的価値



内容項目をもとに
児童生徒の実態把握を行う

② 内容項目の概要や指導の要点を確認する

ねらいとする道徳的価値について
どのようなことを指導するのか理
解するために、**内容項目の概要**や
指導の要点を読みましょう。



A 主として自分自身に関すること

1 自主、自律、自由と責任

自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

(小学校) [善悪の判断、自律、自由と責任]

(第1学年及び第2学年) よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを選んで行うこと。

(第3学年及び第4学年) 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。

(第5学年及び第6学年) 自由を大切にし、自主的に判断し、責任のある行動をすること。

(小学校) [正直、誠実]

(第1学年及び第2学年) うそをついたりごまかしたりしないで、素直に喜びや悲しみと生活すること。

(第3学年及び第4学年) 通ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。

(第5学年及び第6学年) 誠実に、明るい心で生活すること。

(1) 内容項目の概要

「自律の精神を重んじ」とは、他からの制約や命令を待つことなく、自分の内に自ら規律を作り、それに従って行動しようとする気持ちを大切にすることである。「自主的に考え、判断」するとは、他人の保護や干渉にとらわれず、善悪に関わる物事などについて幾つかの選択肢の中から自分で最終的に決めることである。自律は、自分の内部に自ら規律を作ることに関心があり、自主は、外部に対し自分の力で決定することに焦点がある。したがって、自主と自律は一体的に考えられることが多いのである。「誠実に実行」するとは、自分が正しいと思ってい心で、私利私欲を凌いで善悪を正しく判断し、具体的な行為として行うことである。誠実とは、善悪の判断が正しいと判断した場合には、善悪の判断に基づいて行動し、他人の利益や権利を尊重し、責任を負うことである。「責任」とは、ある行為により生じた自分が負うべき義務を良心的に忠実に果たすことである。責任とは、ある人の行為がある事象に対して原因となっているとされる場合、生じた結果に対して応答し、対処することである。したがって、行為者にその行為に対する自由があることを前提としている。自由とは自らに決めることであり、自らの意志や判断で行動することである。自由を意志や判断に基づいた行動には責任が求められる。

自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが道徳の基本である。したがって、深く考えずに多数派に付和雷同したり、責任を他人に転嫁したりするのではなく、自らの規範意識を高め、自らを律することができるように努力する。どのような小さな行為でも、自分で考え、自分の意志で決定したものであるとの自覚に至れば、人間はその行為に対して責任をもつようになる。そ

指導の要点

ここに、道徳の指導の要点として、自律の生活力、自由の精神によって生かされる自覚の行動、責任の行動の重要性を明らかにしている。

(2) 指導の要点

小学校の段階では、特に高学年で自由と自分勝手との違いや、自由な考えや行動のもつ意味及びその大切さを実感できるように指導している。また、誠実については、自分自身に対してだけでなく、外に向けても誠実さを発揮するように指導している。

中学校の段階では、入学して間もない時期には、周囲を気にして他人の言動に左右されてしまうことも少なくない。学年が上がるにつれて、自我が目覚め、自主的に考え、行動することができるようになる。自由を求める傾向が強くなり、社会通念としての規範や今までの自分の価値観を捉え直そうとする時期でもある。しかし、一方では、自由の意味を置き違えて、社会の規範を顧みない生活を営んだり、また、自分自身の行為が自分や他者にどのような結果をもたらすかということを深く考えないまま、無責任な言動をとったりすることもある。

指導に当たっては、小学校における指導内容を更に発展させ、より高次の自立心や自律性を高め、規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校ではまず、自己の高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し、自分の自由な意志に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通じ、失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。

さらに、悪を悪としてはっきり捉え、それを毅然として避け善を行おうとする良心の大切さに気付くようにしなければならない。良心に基づくよい行為とは、自分にとっても他者にとってもよい行為である。この意味で、善悪判断の基準となる多面的なものの見方や考え方を身に付けることの重要性に気付かせ、自分の行為の動機・純粋さにとどまらず、その行為が及ぼす結果についても深く考えられるようにすることが必要である。自由を放縦と誤解してはならず、自らを律し、自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し、人間としての誇りをもった、責任ある行動がとれるように指導することが大切である。

発達段階ごとに
指導の際、
大切にしたいこと

児童生徒の実態把握を
行う際のヒント

指導の要点

指導の要点から抜粋

- 指導に当たっては、小学校における指導内容を更に発展させ、より高次の自立心や自律性を高め、規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校では**まず**、自己の気高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであることを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し、自分の自由な意思に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通し、失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。

指導の要点

生徒の実態は
どうだろうか…

指導の要点から抜粋

- 指導に当たっては、小学校における指導内容を更に発展させ、より高次の自立心や自律性を高め、規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校ではまず、自己の気高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し、自分の自由な意思に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通し、失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。

指導の要点

生徒の実態は
どうだろうか…

指導の要点から抜粋

- 指導に当たっては、小学校における指導内容を更に発展させ、より高次の自立心や自律性を高め、規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校ではまず、自己の気高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し、自分の自由な意思に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通し、失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。

指導の要点

生徒の実態は
どうだろうか…

指導の要点から抜粋

- 指導に当たっては、小学校における指導内容を更に発展させ、より高次の自立心や自律性を高め、規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校ではまず、自己の気高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであることを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し、自分の自由な意思に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通し、失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。

指導の要点

生徒の実態は
どうだろうか…

指導の要点から抜粋

- 指導に当たっては、小学校における指導内容を更に発展させ、より高次の自立心や自律性を高め、規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校ではまず、自己の気高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであることを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し、自分の自由な意思に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通し、失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。

1

内容項目
(道徳的価値)

2

児童生徒
の実態

3

教材の活用



内容項目をもとに
児童生徒の実態把握を行う

③ 児童生徒の実態をもとに本時で考えさせたいことを決める

指導の要点を確認しながら、ねらいとする道徳的価値についてこれまでどのような指導を行ってきたか、その結果としての児童生徒のよさや課題を確認し、本時で考えさせたいことを決めましょう。



©2010熊本県くまモン

指導の要点

生徒の実態は
どうだろうか…

指導の要点から抜粋

- 指導に当たっては、小学校における指導内容を更に発展させ、より高次の自立心や自律性を高め、規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校ではまず、自己の気高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても、自ら考え、判断し、自分の自由な意思に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通し、失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。

こんなことを
考えさせたい

中学校学習指導

こんなことに
気付かせたい

1

内容項目
(道徳的価値)

2

児童生徒
の実態

3

教材の活用

こんなことを
考えさせたい

こんなことに
気付かせたい



教材を吟味し
授業のねらいと展開を考える

① 教材を吟味する

指導の意図、児童生徒の実態をもとに、教材のどの場面を取り上げて話し合うのかを考えます。

1

内容項目
(道徳的価値)

2

児童生徒
の実態

3

教材の活用



Plan

教材を吟味し
授業のねらいと展開を考える



② 本時のねらいを決める

教材吟味で話し合いたいと考えた場面が
ねらいにつながります。

() の学習を通して

() 判断力・心情・実践意欲・
態度を育てる

1

内容項目
(道徳的価値)

2

児童生徒
の実態

3

教材の活用



教材を吟味し
授業のねらいと展開を考える



② 本時のねらいを決める

教材吟味で話し合いたいと考えた場面が
ねらいにつながります。

(〇〇の気持ちを話し合う) 学習を通して

(〇〇に気づき、〇〇しようとする) 判断
力・心情・実践意欲・態度を育てる

目標

学習活動

評価

道徳的諸価値についての理解

自己を見つめ

物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え

自己（人間として）の生き方についての
考えを深める

教え・育てる部分

道徳性を養う

（道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度）を育てる

1

内容項目
(道徳的価値)

2

児童生徒
の実態

3

教材の活用



教材を吟味し
授業のねらいと展開を考える

③ 中心的な発問から考える

教材文の考えさせたい部分（ねらいの学習活動の部分）を中心的な発問にするとよいでしょう。

1時間の授業の展開を考える際は、「導入」からではなく「展開」の中心的な発問から考えます。

演習 1 「道徳科の授業づくり」

目的 授業づくりの手順が分かる

3 教材を使って中心発問づくりまでの演習（40分）



授業づくりステップシート

内容項目
(道徳的価値)

内容項目，道徳的価値を学習指導要領解説で確認

児童生徒
の実態

- ① 道徳的価値に関する児童生徒の実態は？（指導の要点を参考に）
- ② この授業でこんなことを考えてほしい，こんなことに気付いてほしい

教材の
活用

教材を吟味
・考えさせたいところに線を引しながら ・どのように活用し，どのような学習を行うのか考えながら

ねらい

() 学習（活動）を通して
() 判断力・心情・実践意欲・態度を育てる

中心的な発問



内容項目 (道徳的価値)

内容項目，道徳的価値を学習指導要領解説で確認

内容項目 (道徳的価値)



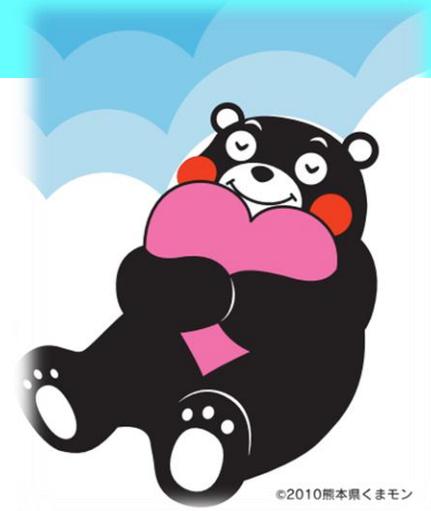
©2010熊本県くまモン

内容項目， 道徳的価値を学習指導要領解説で確認

内容項目： 自律の精神を重んじ， 自主的に考え， 判断し，
誠実に実行してその結果に責任をもつこと

道徳的価値： ○自律の精神を大事にすること
○自主的に考え， 判断すること
○誠実に実行すること ○結果に責任をもつこと

児童生徒の実態



- ① 道徳的価値に関する児童生徒の実態は？（指導の要点を参考に）
- ② この授業でこんなことを考えてほしい、
こんなことに気付いてほしい



教材の活用

教材を吟味

- ・考えさせたいところに線を引ながら・・・
- ・どのように活用し、どのような学習を行うのか考えながら・・・

ねらい

()
学習（活動）を通して
()
判断力・心情・実践意欲・態度を育てる

中心的な発問

Contents

道徳科の目標

P1



Research

内容項目をもとに
児童生徒の実態把握を行う

P2～P3



Plan

教材を吟味し
授業のねらいと展開を考える

P4～P5



Do

児童生徒の実態やねらいに合った
学習活動を考える

P6～P11

導入の工夫例 P6

書く活動の工夫例 P7

表現活動の工夫例 P8

話合いの工夫例 P9

板書を生かす工夫例 P10

ICTの活用例 P11



Check

道徳科の評価の進め方

P12～P15

※ 本時の学習例

P16～P17



Action

授業を充実させるために

P18

児童生徒とともに考え、
楽しむ授業に向けて

道徳科授業力向上 手引書

授業づくりのRPDCA

令和5年3月 熊本県教育委員会



©2010熊本県くまモン



児童生徒の実態やねらいに合った学習活動を考える

板書を生かす工夫例 葛藤パターン（矢印の活用）

よさ 登場人物の葛藤や役割演技等を通した気付きを分割して板書すると、共通点や相違点が視覚的に分かりやすくなります。

「だまっておく」と考えた理由
正直はハナッ
「正直に言う」と考えた理由
正直はなぜのか考えよう
正直に言う」

葛藤する2つの意見を交換した後、気付きを交流し、板書します。

主題名:自分に正直に (A-2) 正直, 誠実 教材名:「まどガラスと角」 出典:小学どうとく生きる力3 (日本文芸出版)

- POINT 2つの対立した意見を話し合った後、気付きを矢印の中に書くことで、自分たちの気付きが「本時のめあて」に向かっていることを意識させることができます。
- POINT 一番考えさせたいところを板書の中心に置いていくと、インパクトのある板書になります。「縦書き」か「横書き」かは、効果を考えて授業者が決めます。

表現活動の工夫例 役割演技

よさ 登場人物の思いを即興的に演じることで、自分事として捉えやすくなり道徳的価値への理解を深めることができます。

ばくたちで、もっとしょうぶなぶらんこを作ろう。

教師が児童での役割演技から児童が児童の役割演技へ

小道具の活用
役割カード
ベル

① そうすると、くまさんもいっしょにのれるよ。

② おおさん、ありがとう。さっきはごめんね。

③ いいよ。これからはみんなで楽しくあそぼうね。

それぞれの立場での気持ちを即興的に表現します。表情や声のトーンなどからも、お互いの気持ちを感じ取ることができます。

主題名:互打ちとなくよく (B-9) 互敬, 互助 教材名:「ぶらんこ」 出典:どうとく2 (光村図書)

- POINT 即興的に演技をすることは、自分の感じ方や考え方を語るということです。児童生徒の発言に問い返しをしたり、参観している児童生徒の思いを問いたりすると、考えは更に深まります。
- POINT お面や役割カードなどの小道具を活用したり、場面に入り替わる時に、ベルや「よーい アクション」などの合図を送ったりすることで、役になりきる手助けとなります。

話し合いの工夫例 ツールを使った話し合い

よさ 児童生徒相互の考えを明確にでき、多様な考えに出会い、認め合うことにつながります。

マトリックス
名前プレート
心のものさし

主観名:相手のことを考えて (B-10) 相互理解, 寛容 教材名:「ちこく」 出典:小学道徳生きる力4 (日本文芸出版)

主観名:法やきまりを守って (C-12) 規範の尊重 教材名:「ここをまれば」 出典:道徳6 (光村図書)

表しにくい心の中を「心のものさし」や「心情円盤」で表現できます。

- POINT 自分の立場や気持ちを思考ツールを使って表させた後、例に示したような問い返しをすると更に児童生徒の考えが深まります。(例:どうしてそう思ったの? 経験したことあった? みんなはどう思うの?)

ICTの活用例 一人一台端末の効果的活用

よさ 児童生徒の表れにくい心の中を可視化したり共有化したりすることができます。

前
後
コミュニケーション
笑顔
生きる

授業前と後の児童生徒の考えの傾向の比較から、授業での学びを共有することができます。

主観名:勤務の尊厳 (C-13) 勤務 教材名:「あるレジ打ちの女性」 出典:中学道徳あすを生きる3 (日本文芸出版)

- POINT 一人一台端末は、アイデア次第で様々な活用方法を工夫することができ、児童生徒の学習意欲を高め情報活用能力を育むことが期待できます。
- POINT ねらいとする道徳的価値に迫るために効果的かどうかという視点をおおきく大切にして、指導の明確な態度をもって活用することが重要です。

※道徳科授業力向上手引書には、「導入の工夫例」や「書く活動の工夫例」等も掲載しています。

Check



道徳科の評価の進め方

何を評価するのでしょうか。

道徳科の授業は、道徳性の育成を目指して行います。しかし、道徳性が育ったかどうかを評価するものではありません。道徳科では、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価します。

学習状況とは何ですか。

道徳科の目標に示されている学習活動で見られる児童生徒の発言や記述、学習活動をしている児童生徒の姿のことで、

- 道徳科の目標に示されている学習活動は・・・
- ① 道徳的諸価値について理解する
 - ② 自己を見つめる
 - ③ 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える
 - ④ 自己の(人間としての)生き方についての考えを深める

つまり左の学習活動で見られる児童生徒の学びの姿に着目して評価を行います。

道徳性に係る成長の様子とは何ですか。

1単位時間の授業だけでなく、1時間、1時間の道徳科の目標に示された学習活動(学習状況)を積み重ねた結果としての学習状況の成長の様子です。大きくくりなまともりを踏まえた個人内評価を行うことが求められます。

POINT 「大きくくりなまともり」とは? 年間や学期といった一定の期間のことです。

学習状況を把握するためにはどうしたらよいですか。

まずは、道徳科の目標に示されている学習活動を行うことが必要です。そして、児童生徒の学びの姿を把握していきます。学習指導要領解説では次の2点で学習状況を把握していくことが示されています。

● 一直的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。

● 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

Action

本時の学習例 (小学校)

主題名：あたたかい心で親切に (B-6) 親切, 思いやり
 教材名：「はしの上のおかみ」 出典：わたしたちの道徳 1・2年 (文部科学省)

この授業では、自分より幼い人の気持ちを考えて温かい気持ちで接することのよさを考えさせたい。

(1) ねらい
 うさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげたおかみの気持ちを考えるを通して、自分より幼い人のことを考えて温かい心で接しようとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動 (◇予想される児童の発言), ○主な発問, ◎中心的な発問
導入	<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今まで親切にされてうれしかったことはありますか。 ◇転んだとき、6年生が助けてくれた。 ◇一人でいるとき友達になわとびに誘ってくれた。 <p>親切のよさについて考えよう。</p>
展開	<p>2 教材を読み、おかみの気持ちについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○くまから抱き上げられ、そっとおしてもらった時、おかみはどのようなことを思ったのでしょうか。 ◇なんでとおしてくれたのだろう。 ◇くまさん、優しいな。 ◇優しくしてくれてうれしいな。 <p>中心的な発問 ◎うさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげたおかみは、どのようなことを思ったのでしょうか。</p> <p>◇うさぎはうれしかったかなあ。 ◇心がぼかぼかしてきた。 ◇気持ちがいいなあ。 ◇くまに抱き上げられたおかみも、うさぎを抱き上げたおかみもどちらも笑顔ですね。どちらの笑顔が好きですか。そのわけは？</p> <p>◇抱き上げられた時の笑顔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しくするといいなということに気付いた笑顔だから。 →優しさは広がるね。 ・優しくされるとうれしから。 <p>◇抱き上げた時の笑顔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がやさしくして喜んでくれるともっとうれしから。 ・優しくできたことがうれしから。
終末	<p>3 自分自身を振り返り、これからの自分について考える。</p> <p>(1) 思いやりに関わる経験について、これまでの自分を振り返って書く。 (2) 全体で振り返りを共有する。</p> <p>4 6年生のインタビュー動画を見て、授業を振り返る。</p>

- 【評価の視点 1】 うさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげたおかみの気持ちについて考えたり、話し合ったりしている。(方法：発言・シート)
- 【評価の視点 2】 自分より幼い人への関わりについて、これまでの自分を振り返ったりこれからのことを考えたりしている。(方法：発言・シート)

授業づくりの手順

Research

内容項目をもとに児童生徒の実態把握を行う

Plan

教材を吟味し、授業のねらいと展開を考える

ねらいを考える

中心的な発問を考える

中心的な発問の前後の発問を考える

Do

児童生徒の実態やねらいに合った学習活動を考える

Check

ねらいの中の学習活動に関係する部分を評価の視点にする

本時の学習例 (中学校)

主題名：社会の中の思いやり (B-6) 思いやり, 感謝
 教材名：「バスと赤ちゃん」 出典：中学道徳あすを生きる1 (日本文教出版)

人と人が互いを思いやる心の素晴らしさを考えさせたい

(1) ねらい
 バスの中での出来事におけるお母さん、運転手、乗客それぞれの思いについて考えるを通して、人と人が互いを思いやる心の素晴らしさに気づき、他者に対する思いやりと感謝の心を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動 (◇予想される生徒の発言), ○主な発問, ◎中心的な発問
導入	<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今までどんな思いやりのある行動をしましたか。 ◇友達に順番をゆずった。 ◇困っている下級生を助けた。 <p>思いやりの心がある社会にするために、大切なことは何だろう。</p>
展開	<p>2 教材を読み、バスの中での出来事について考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どの場面が心に残りましたか。 ◇運転手さんの発言。理由は、降りようとしたお母さんを止めたから。 ◇乗客のみんが拍手したところ。 <p>中心的な発問 ◎乗客の皆さんの拍手は、どんな拍手だったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇何となくつられて拍手 (何があったのかな?) ◇運転手さんナイスの拍手 (若いお母さんに声をかけてくれてありがとう。) ◇お母さんへのエールの拍手 (赤ちゃんは泣くものだよ。速速なく乗っていって。) ◇赤ちゃんへのエールの拍手 (バスの中は暑かったろう。) ◇乗客の一人として感動の拍手 <p>KJ法を使った話し合いの工夫</p>
終末	<p>3 自分自身を振り返り、これからの自分について考える。</p> <p>(1) 思いやりや感謝に関わる経験について、これまでの自分を振り返って書く。 (2) 全体で振り返りを共有する。</p> <p>4 学校生活のスライドや「マザーテレサ」の言葉から、授業を振り返る。</p> <p>○今日の授業で、考えは広がったり、深まったりしましたか。</p>

- 【評価の視点 1】 お母さん、運転手、乗客のそれぞれの思いについて、考えたり話し合ったりしている。(方法：発言・シート)
- 【評価の視点 2】 人と人が互いを思いやる心の素晴らしさを自分事として捉え、書いたり伝え合ったりしている。(方法：発言・シート)

授業づくりの手順

Research

内容項目をもとに児童生徒の実態把握を行う

Plan

教材を吟味し、授業のねらいと展開を考える

ねらいを考える

中心的な発問を考える

中心的な発問の前後の発問を考える

Do

児童生徒の実態やねらいに合った学習活動を考える

Check

ねらいの中の学習活動に関係する部分を評価の視点にする

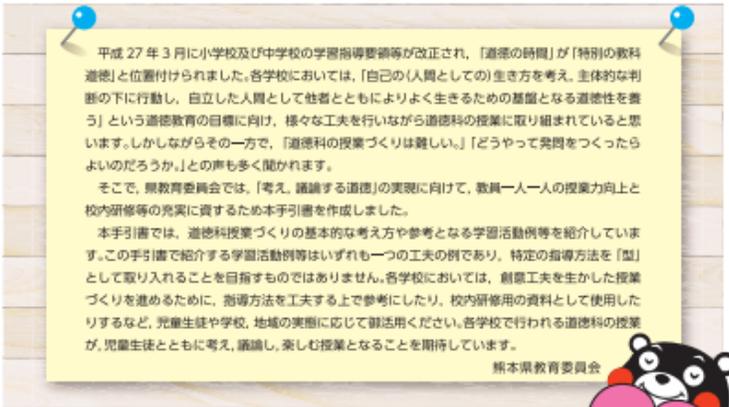
道徳科授業づくり手順のポイント 	
1	学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）の 内容項目のページ で 道徳的価値の確認 をします。
2	道徳的価値についてどのようなことを指導するのか理解するために、 内容項目の概要や指導の要点を確認 します。
3	道徳的価値について、 児童生徒のよさや課題を確認し、本時で考えさせたいこと を決めます。
4	教材を読みながら、 本時で考えさせたいことが教材のどこに含まれるか を考えます（教材吟味）。
5	本時のねらいを決定 します。
6	中心的な発問 を考えます。
7	中心的な発問の 前後の発問 を考えます。
8	学習活動 （導入、話し合い、書く活動、表現活動、板書、ICTの活用等）の工夫について考えます。
9	ねらいをもとに 評価の視点 を考えます。



授業の準備はできましたか。
子供たちと道徳科の授業を楽しみましょう。

道徳科授業力向上リーフレット

授業づくりのRPDCA



平成 27 年 3 月に小学校及び中学校の学習指導要領等が改正され、「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」と位置付けられました。各学校においては、「自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として社会とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」という道徳教育の目標に向け、様々な工夫を行いながら道徳科の授業に取り組みされていると思えます。しかしながらその一方で、「道徳科の授業づくりは難しい」「どうやって発問をつくったらよいのだろうか」との声も多く聞かれます。

そこで、県教育委員会では、「考え、議論する道徳」の実現に向けて、教員一人一人の授業力向上と校内研修等の充実に資するため本リーフレットを作成しました。

本リーフレットでは、道徳科授業づくりの基本的な考え方や参考となる学習活動例等を紹介しています。このリーフレットで紹介する学習活動例等はどれも一つの工夫の例であり、特定の指導方法を「型」として取り入れることを目指すものではありません。各学校においては、創意工夫を生かした授業づくりを進めるために、指導方法を工夫する上で参考にしたり、校内研修用の資料として使用したりするなど、児童生徒や学校、地域の実態に応じて御活用ください。各学校で行われる道徳科の授業が、児童生徒とともに考え、議論し、楽しむ授業となることを期待しています。

熊本県教育委員会

※道徳科授業力向上リーフレットを
熊本県教育委員会ホームページに掲載しております。



令和 5 年 3 月 熊本県教育委員会

©2010熊本県くまモン



児童生徒とともに考え、
楽しむ授業に向けて

道徳科授業力向上 手引書

授業づくりのRPDCA



令和 5 年 3 月 熊本県教育委員会

©2010熊本県くまモン

授業づくりの手順

1

内容項目
(道徳的価値)

児童生徒・・・
自らが道徳性を養うための
手掛かり

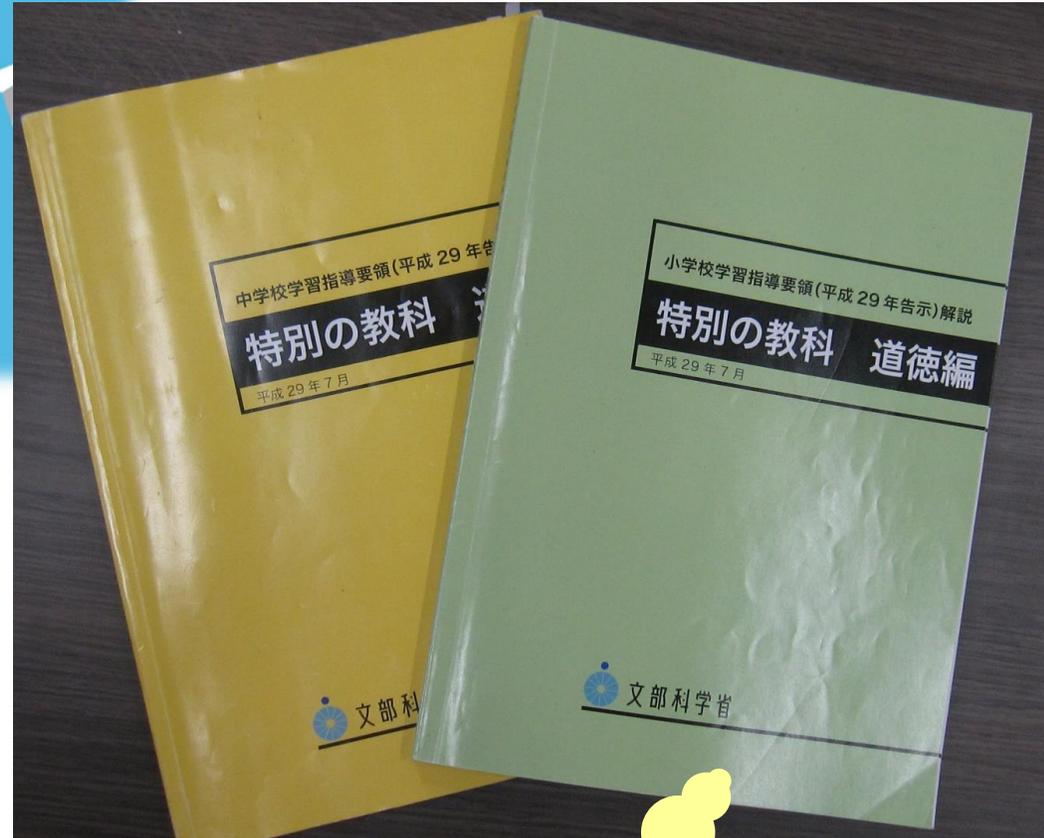
2

児童生徒
の実態

教師・・・・・・・・
道徳性を養うための手掛かり
と同時に授業づくりの
手掛かり

3

教材の活用



まずは、
学習指導要領解説の
内容項目を読むことから
はじめてください。